

駅 鈴（複製）



わが国の通信・交通制度は、七世紀後半の大化の改新後、律令が制定されてから整えられました。この制度を駅制といい、都から諸国へ至る七つの幹線道路に約十六キロ間隔で駅屋が置かれ、駅馬を利用して公文書の送達や緊急連絡などが行われました。

駅鈴は、公務旅行者や公文書送達の駅使が、駅馬を利用することができる資格証明として携行したといわれています。

写真の駅鈴は、島根県隠岐郡西郷町の玉若酢神社が所蔵している隠岐国造家伝来の八稜鈴の複製で、鑄金家として著名な香取秀真が製作しました。

（表紙解説）

東海道五拾三次之内 箱根 湖水図

箱根の山は天下の嶮といわれるが、その急峻な山道を大名行列が一列になって登っている。岩肌をむき出した崖と真っ青な芦ノ湖の湖水、後方には白い富士山と、それぞれが対比的に描かれていて美しい。

湖畔から少し山に入ったところの社は箱根権現と思われる。